文化の仲間

京浜協同劇団と共に歩む文化の仲間　会報 No.83　2018 年 8 月 5 日発行
川崎市幸区古市場 2-109　京浜協同劇団内　TEL 044-511-4951　郵便振替 00250-3-18369
ホームページ：http://www.keihinkyoudougekidan.com/bunkano-nakama/

第 38 回かわさき演劇まつり

4 ステージで 1600 人以上が来場しました

第 38 回かわさき演劇まつりが 7 月 14 日・15 日、川崎市多摩市民館ホールで行われました。出演者や観客の方々に感想をお寄せいただきました。

「演劇の人になります」

片柳　あおば

こんにちは、片柳あおばです。

僕はどんぐりとくりの木を演じました。

くりの木は高いところから顔を出すので、こわかったけど、和田さんが支えてくれました。

演劇は人のことを笑わせたり、みんなもやりたいなー、今度も観に来ようって思わせたい。そういう気持ちで頑張りました。

奈良さんは、僕の面倒をいっぱいみてくれました。怒られたこともありました。頑張らなくちゃと思いました。

大西さんは、こわい時もあるけど、遊んでくれます。でも稽古のために来ているので少しだけです。本当はもっと一緒に遊びたかったです。

写真撮影©駒ヶ嶺正人（以下同）

本番ではたくさんのお客さんの前で、僕ひとりで幕の前に出てセリフを言いました。たくさん拍手をしてくれて、笑ってくれました。もう、やみつきです。演劇はすごく最高です。次も絶対出ます。絶対演劇の人になります。（小学 1 年）

母の視点で――

心がグッと成長した 3 カ月半

片柳　麻友美

「演劇の人になります」　今年 3 月、息子は先生に手紙を書きました。幼稚園の発表会で主役を演じ、すっかりハマってしまったようで、何か学べる所はないだろうか――と探し始めたところ、柳沢さんから演劇まつりのオーディションがあると聞き、ワークショップに参加しました。

出演が決まり、先生方も大喜び。じいちゃん、ばあちゃんも大喜び。目まぐるしい毎日の始まりとなりました。

立ち稽古が始まったあとでしょうか、息子が学校でケガをして血だらけで前歯が抜け落ちそうになった姿を見たときは、降板を考えましたが、本人はケガのことより稽古を休むこと、セリフがうまく言えなくなったことを苦しんでいて、「そんなに演劇がやりたかったんだ」と親子で涙、涙、涙。

思い切って抜歯し、それからはいろんな意味で元気になり、皆さんにはたいへんな思いをさせてしまいましたが、子ども扱いせず、きちんと向き合ってくださることが息子はとてもうれしかったそうです。

演劇ドシロウトの私たち親子にとって、たいへん刺激的な 3 カ月半。4 歳と 2 歳の子どももいるので、正直疲れたなと思うこともありましたが、無事本番を迎え、生き生きと輝く息子の姿を見て、ホッとしたのと、もう終わるんだなと思うと涙が出ました。

次回も必ずオーディションを受けると息子は言っておりますがはたしてどうなることやら。

ですが、先輩方の生き生きとした姿を見て「70 歳くらいまでは演劇をやるよ」と言っていますので、きっとまた「やみつきになった」と言うのだと思います。

心がグッと成長した 3 カ月半。関わってくださったたくさんの方々、支えてくださった方々、すべての方に感謝をしています。

ありがとうございました。

「注文の多いどんぐりと山猫と料理店」に参加して

市民劇の市民劇たる在り方、存在意義

優木　かおる

出演者を募集している、とお知らせ頂いた時、私は川崎の劇団ラニョミリの４月公演「ケーフェイ。ある女子プロレス物語」の稽古中でした。

一度は宮沢賢治の作品に出てみたいと思っていたし、TOKYO ハンバーグの大西弘記氏の演出というのも魅力だったし、「ケーフェイ。」の脚本の丸尾聡氏が、こちらも脚本を担当されているということにもご縁を感じて、参加させて頂くことにしました。

何度かの本読みと台本の手直しを経て、全リ演の公演や合同公演で散々お世話になって通い慣れた京浜協同劇団の稽古場に通う日々が始まりました。

初めまして、の人との距離は、ワークショップやゲームや河原への散歩で徐々に縮まり、配役発表となったのですが、市民劇の難しさとでも言うのでしょか、出演者がなかなか揃いません。
代役を立てて稽古を進めるのですが、代役では難しい場面もあり、最初はどんぐりのダンスの稽古が続きました。

因みに私の役は、お色気どんぐりと白いきのこ町の人。どんなアンサンブルになるのか、ワクワクしていました。

台本では楽隊になっていたきのこも踊る事になり、今回主役を務めた TOKYO ハンバーグの涼香さんが、素敵な振りをつけて下さるのですが、演者の力量や年齢を考慮して、より踊りやすく考え直して下さって変更になったり、演出家とのイメージの相違から何度か変更になったり、なったり（笑）とダンスひとつとっても不安材料がいっぱいです。

芝居の方の稽古は遅々として進まない日々が続き、「間に合うんだろうか?!」と心配になりましたが、演出家には何かもくろみがあるのだろう、と思って、今出来ることをやるしかない！とダンスに精出しておりました。

芝居の導入部分、前半でどれだけ子どもたちの目やハートを舞台に向け集中させられるか、は、その後のストーリー展開のためにもとても重要なことですが、それがきのこ達やどんぐり達の楽しくも不思議な動きやダンスだったのではなかったか、と思います。

それがいい加減だと、正直な子どもたちは宮沢賢治のこの世界に入ってきてはくれません。

プロのようなキレキレの踊りである必要はなく、笑顔いっぱいの一生懸命手を抜かずに踊る様子が、エネルギーが、子どもたちに伝われば、後はストーリーの進行に子どもたちがついて来てくれる！と。

徐々に役者も揃い始め稽古が進み出すと、それと並行して小道具、衣装、大道具の作業が始まりました。公演後の感想には、「衣装が可愛くて素敵でした！」「大道具、小道具が素晴らしかった！」というお声がとても多く嬉しかったのですが、役者をしながらの作業は、その量が半端なく多くて体力的にも時間的にも大変で、失礼ながら決してお若くはなく、体調も思わしくない事情の中で作業して下さった京浜協同劇団の皆様やお手伝い下さった方々には、ただただ頭の下がる思いです。何十年も、かわさき演劇まつりや市民劇を支えて来たという誇りや責任感をヒシヒシと感じました。

そうこうするうちに、本番までの時間がどんどん短くなってきます。芝居の要になる役どころは主に、京浜や川崎の重鎮や経験者が占め、役者が揃わない、稽古期間が短いという問題を難なくクリア、と言いたいところですが、そうはいかなかった！

やっぱり稽古量は嘘をつかないんですね。稽古回数の少ない場面は、スカスカです。

でも、演出の大西さんはいつも前向き。ただの能天気なポジティブではありません。（本質はどちらかと言うと文学的繊細ネガティヴ思考と私はみた、がどうでしょう）、役者を信じ、励まし、自ら動いて指導し、時々怒って見せて、最後に褒める！「大西さん、子供出来たらきっと子育て上手いだろうなぁ」と思って見ていました。

そう！人を育てる、役者を育てるのがとても上手な演出家なんですね。

子ども、というフレーズが出た所で、今回の最年少であり、大事な栗の木の場面を見事やり遂げた小学１年生のあおば君について書かずにはいられません。彼は「将来芝居をする人になる！」という強い意志を持って今回参加しました。とは言え、稽古は夜がメイン。周りは大人ばかり。他人の稽古を見るだけのこともある。じっとしていろ、最後まで話を聞け、というのは無理な話です。でも彼は頑張りました。可愛がられた

り叱られたり、大人の環境の中で彼はこの短期間で色んな物を見たり聞いたり体験して、「70 歳までは芝居やろうと思う」という確信まで持ったのです！　これこそ市民劇の市民劇たる在り方、存在意義なのではないか！と私は感動しました。

本番は、素晴らしい生演奏と照明も加わって、4 回で 1600 人以上のご来場を頂き、宮沢賢治の不条理感を子どもは子どもなりに、大人はそれなりに受け取って頂けたのではないか、と思います。

稽古中、闘病中だった京浜協同劇団の細田さんが亡くなったり、「死ぬまで舞台に立ちます！」という若菜さんの宣言があったり、個人的にも長年お世話になった劇団をやめたり、と思い入れ深い公演となりました。楽しかった！

「注文の多いどんぐりと山猫と料理店」を観て

陽気で、いきいきとして、残酷で、幸福な舞台

高村　絵里

宮沢賢治は難解だ。一見平易に見えて、その世界は地質学・物理学・宗教学など多岐にわたり、文学のみでは到底解析しえない。彼の作品は、映像化や舞台化での成功も、稀だ。「演劇まつり」がこの難題に挑むと聞いて驚愕した。一体どう創るのか？

童話『どんぐりと山猫』は、一郎が葉書を受け取るところから始まる。彼は山猫の依頼でどんぐりの裁判を解決するが、この芝居の主人公は、「一郎」ではないという。舞台上で彼が遭遇する悲惨な事件も、原作には勿論ない。

同様に、『注文の多い料理店』のエピソードも、原作とは異なる。狩りに行った紳士が山猫に喰われそうになる、という筋は原作通りだが、彼らの犬の造型が別物だ。犬は一度死んだ後、銀河鉄道で『氷河鼠』の白熊を演じる。

ともかくこの二つの挿話が交互に現れ、芝居は展開する。キノコやドングリに扮したアンサンブルが歌い踊り、美しい舞台装置と相まって（あの豪華なセットが手作りとは舌を巻く）、絵本のようなカラフルな場面を形成していく。

黄金の獅子には、どんな場面も必ず成立させる、小川がこう。猟師のリーダー格は、護柔一。登場すると空気がガラッと変わる。猟師の犬は――まさか着ぐるみ姿の藤井康雄を見られるとは。劇中、客席の子どもたちが最も喜んだのは、いきいきとした迫力の、ひらがまさこの山猫だ。

一郎が出会う、話す栗の木や、歌う滝や、キノコの

ダンスを、客席の子どもたちは真剣に見つめる。私も呑気に観ていたが――その油断は一幕ラストで覆された。

一郎が山猫に食い殺される。客席の子どもたちは一瞬呆然とする。が、すぐに笑い出す。子どもの脳はこれを「残虐シーン」とも「驚愕の幕切れ」とも捉えないらしい。

だが大人である私は、意表をつかれる。これは賢治の世界の再現ではない、と、ようやく気づく。陽気で牧歌的な前半は、確信犯であったのか。死んだ犬は蘇って白熊となり、飼い主に銃を突きつける。鶏を食べた一郎を、山猫が食べる。

宮沢賢治の世界には、生きるために泣きながら他者の命をとるものと、とられる側の赦し、その静かな悲しみと慈しみがある。だがこの芝居の世界はもっとシンプルだ。生きるために最低限の殺生はお互い様だ、というような、あっけらかんとした迷いのなさがある。

「みんなあわれです。かあいそうです」と一郎は独白する。だが彼は、そのような自分の運命を嘆いてはいない。一郎は言う、猟師も、白熊も、山猫も、ドングリも、「みんな同じです」と。その姿は、すがすがしい。

そう、みんな同じ。プロの役者も、アマチュアも、一般参加の市民も、高齢者も、子どもも。立場も思想も異なる人々が、同じドングリの衣装を着て、同じ台詞を輪唱する。そうして皆で笑顔でロビーに立ち、同じ店で乾杯をする。ああ、これこそが芝居の原点なのだ、と私は思う。この作品を観て、関係者たちの幸福そうな顔を見て、素直にすばらしいと思った。

終幕直前、登場人物たちが客席に葉書を配って回る。あの葉書を受け取って、明るく、残酷で、生命力溢れる、あの芝居の世界に入ってみたい。そんな思いが、今も続いている。

細田寿郎さん逝く

京浜協同劇団創立メンバーで元運営委員の細田寿郎さんが、病気療養中のところ、去る6月11日に逝去されました。85歳でした。細田さんと親交が深かった照明家の横田元一郎さんに追悼文をお寄せいただきました。また、葬儀の際の藤井康雄さんと二村柊子さんによる弔辞もあわせて掲載します。

細田（ホッ）さんの思い出

横田　元一郎

「横ちゃん、泊まっていきなよ。うちの迎賓館へ」。「迎賓館？」誰か名付けたのか知らないが、劇団稽古場の3Fにある細田宅にある小部屋がそう呼ばれています。元々は作曲家の安達さんが仕事をする為に開放された部屋らしいのですが、呑兵衛の僕は少し違った方法で利用させてもらいました。本番が近くなると稽古終了後のダメ出しも熱を帯びてきて全て終了するのは11時頃になるのもしばしば。それから二人でダメ出し、打ち合わせを兼ねてビールでも飲もうかとなりますと終電の時間はあっという間に！　つい迎賓館のお世話になるという羽目に。何回お世話になった事だろう。ある時なんかは朝目が覚めると夫婦はすでに仕事へ出かけ、食卓におにぎりが二個置いてあります。有難く頂きました。トンちゃん！お世話になりました。だけど食べてよかったのかな？　「俺はョー三池に行ったンだ！」余り自分の事を喋らない細田（ホッ）さんがある時珍しく少し酔った勢いでそう言いました。多分原爆を扱った芝居「ゼロの記録」の時だと思いますが僕が長崎生まれと言ったからでしょう。「俺はプロレタリアートだからヨ」。「総資本対総労働」と呼ばれ激しい争いがあった九州の三池炭鉱のストライキに川崎から参加。劇団の歩みを読みますと1959年「三池の戦い」が上演されています。ここに細田（ホッ）さんと劇団の芝居の原点があるのだなと思いました。その後稽古場を建てる時茅ケ崎の自宅を売って、建設資金にしたと聞いて改めて芝居に懸ける意気込みを見直しました。細田（ホッ）さんとの最初の出会いは、劇団との関わりもそうですが小田さん演出の「コーカサスの白墨の輪」です。確か皮のコートを着た宿屋の主人を演じていました。低音の太い声が印象的でした。それ以降は演出と照明という関係で2007年の「巨匠」まで付き合ってきました。去年「南武線物語」の稽古を京浜の稽古場でやった時に喫煙所で一緒に煙草吸ったのが最後になりました。彼は演出家の他に幾つかの顔を持っていました。包丁に凝っていて魚をさばく時の楽しそうな表情。何だかわからないが工夫して作った凝った小道具。器用な職人の一面を見せてくれました。

ある時他の劇団の戯曲を読んでいたら「流れ星が流れる」との1行がありました。今でこそムービングライトは珍しくありませんが、約20年前は稀でした。そこで細田（ホッ）さんに頼みに行きましたところ、会社の職人さんたちが色んな意見を出してくれて、想像以上に良い物が出来上がりました。僕らはそれを流れ星マシーンと名付け今でも重宝しています。細田（ホッ）さん亡き後はこの器械を見る度にあの穏やかな笑顔を思い出すことでしょう。若い人が劇団に入ってこない、というのが晩年の悩みでした。家まで売って青春を演劇に賭けて歩んだ人生。そんな細田（ホッ）さんから見るとパッション不足に見えるかもしれないけど、若者は若者なりに頑張って細田（ホッ）さんの遺志を継いで行くと思います。

細田さん　安らかにお休みください。

弔　辞

京浜協同劇団　**藤井　康雄**

細田さん。とうとうこの日が来てしまいました。誠に残念であります。今年の初め休養先でたおられ急遽入院されましたが、持ち前の精神力で無事に回復され退院なさいました。そして、「秋の公演は演出をやりたいのだが……」と発言され、最後の最後まで創造の第一線で活躍していたいという意欲を示していたのです。しかしながら再び病に伏され病床の上でどんな思いで病と闘っていたのか想像に難くありません。どんなに悔しい思いだったのか、どんなにじれったい思いだったのか……。

細田さん。あなたとの出会いは私が19歳の時であ

りました。60 年安保闘争の直後、日本鋼管鶴見の養成工を経て働き始め、暫くして協同劇団の「マーシェンカ」という舞台を見て感動し入団しました。そして第 6 回公演「生まれた家」で演出と役者という関係で相まみえたのです。大変難しい役だったのですが、演ずることの楽しさを初めて体感することが出来たのです。そしてあなたも中学校卒業と同時に働いてきた養成工の出身であること、それも同じ日本鋼管の川崎製鉄であったことなどを知りました。「あァ、同じ境遇の人がこんな身近なところにいたんだ」という思いもあって、それ以来人生の先輩として、演劇創造の先輩として教えを乞う事になったのでした。

細田さん。あなたはその時 30 歳でした。川鉄演劇研究会から協同劇団設立へと参加し、創立メンバーの一人として目覚ましい活躍をしておりました。職場での 3 交代勤務、しかも自宅は茅ヶ崎、深夜遅くまでの稽古、どこでどう睡眠をとっているのかわからないほどでした。そんなときです。劇団にとっても細田さんにとっても最大の危機が訪れました。所謂「郡山問題」です。早稲田出身であり協同劇団の演出の主要なメンバーが起こした不祥事から始まった劇団分裂の危機が襲ったのです。

細田さん。あなたはその回避と解決のための先頭に立たれ、団結公演と銘打った「おふくろの歌」の演出を担当され、見事に劇団の再生を勝ち取ったのでした。それ以来演出の仕事を一手に引き受けざるを得ない立場に追い込まれます。その時です。あなたは「俺、職場辞めるよ」と宣言し、宣言どおり職場を辞めて劇団の創造の中心に座り、創造体制を確立、維持させることが出来たのでした。1967 年、その時あなたは 34 歳でした。

細田さん。あなたは私の結婚式の媒酌人を務めてくださいました。当時は劇団員同士の結婚が多かったのですが、殆どそのすべてを引き受けておりました。すでに創立メンバーでもあった若菜とき子さんと結ばれていたという事もあり、あらゆる分野で劇団の中心に存在し信頼されていたからです。

細田さん。第一次稽古場の建設に踏み切ったのはあなたのこの一言があったからです。

「俺、家売るよ！」なんと、茅ヶ崎の自宅を売却するのでその資金を頭金にして何とかしようよ、という提案だったのです。

あなたのその精神、その心意気は創立 60 年を迎えた今日でも脈々と生き続けております。あなたの声が聞こえてくるような気がいたします。

「一人一人がなし得る最大の努力は惜しむまい」「夢を持つことだよ、人生、損得じゃつまらないだろう」

15 歳から労働者として働いてきたあなたの人生の「原風景」とも言うべきものを、私はこう感じ取っております。

すべてを引き受ける「楽天性」と、しかしながら必ず成就させたいという「意志の継続性」そんな劇団員が多数派を占める集団をあなたは創りたかったに違いありません。新たな困難も抱え、まだまだ道半ばではありますが、あなたの教えを胸に刻み、これからの歩みを進めたいと思っております。

細田さん。ありがとうございました。そしてお疲れ様でした。ゆっくりと休んで下さい。

あの世でまた芝居を一緒にやりましょう。いや、すでに先だった創立のメンバーたちは、賑やかに喧々諤々、始めているのかもしれませんね。

本当にお疲れ様でした。安らかにお眠り下さい。

2018 年 6 月 15 日

弔　辞

文化の仲間代表世話人　**二村　柊子**

私が京浜協同劇団に足を運ぶようになって、ほぼ半

世紀近い時がたちました。最初に見た芝居は「太陽がほしい」という作品でした。その日からの30年間、私が参加していた「東京女声アンサンブル」「東京放送合唱団」「合唱団コーラスシアター」「神奈川合唱団」などの舞台創りには、いつも細田さんがいました。照明の故人となってしまった叶仁人とのコンビで、舞台について何も知らない歌い手たちの面倒をよーく見てくださいました。また、演奏旅行の機は、車の運転も引き受けてくださいました。本当にありがとうございました。

15年前、70歳の時、食道がんが見つかりました。初期ということで内視鏡を使っての切除、何とかクリアしました。それからの10年間は、病気のことなんか忘れてしまっていたような気がしますが、去年7月、七夕のころから、次々と疾病が見つかりました。食道には、数年来かげを潜めていた腫瘍（2cm大）が確認されました。しだいに食事に不自由な思いをすることとなり、やがて体は限界に達しました。

この15年間ずっと細田さんの「食道」を見続けてきた人がいます。野本朋宏医師です。15年前は研修医だったそうですが、細田さんに出会ったこともあって、消化器の専門医になったのだと言われました。その野本先生に見守られて最後の時を迎えることができてよかったですね。いつも彼に「最後までめんどう見ろよ！！」って言ってたのですから。

20年ぐらい前から細田さんは、いなかの空き家になっている私の実家の庭と小さな畑を引き受けてくださいましたね。月に1回くらい、数日。ネコジャラシだらけだったり、嫌われ者のアカザが生い茂ったり。最初のころは「カヨイですか！！」などとも言われましたが、最近では、近くの農家の方に「いい土になったネー」と一目おかれるようになり、おまけにアカザでつくるステッキの指導を請われたりするようになりました。

数年前には、寄る年波には勝てず、小さな畑にも耕運機が登場しました。早朝、夜明けと共のエンジン音。ご機嫌でしたね。少年時代、2人のお兄さんは戦場へ、6人兄弟の末っ子のトシロー少年がパイオニア精神をもっていらしたというその父親と、暖かで豊かな茅ケ崎の畑を前に語らう姿を思い浮かべてしまうこともありました。

この庭に今、植えたい1本の苗木があります。建て替え前の劇団の入り口近くに柊（ひいらぎ）が1本ありました。その木は今、私の住んでいる保土谷に植え替えられ大木となり、冬の訪れとともに白い花を咲かせ、やがて花は実となり、その実が土に落ち芽を出し育ち始めたのです。細田さんが丹精込めて作った信州・松本の庭のどこかに、機を見て植えようと思っています。

劇団の「文化の仲間」担当は、ずーっと細田さんでした。たくさんの助言を、時には苦言もいただきました。数十名の集団ですが、少しずつ成長してきたと思っています。

いつの日か、細田さんに、京浜協同劇団と共に歩みを進める仲間の一人として、すてきな報告を持って行かれるようになりたいと思っています。

85年間、お疲れ様でした。どうぞ、心ゆくまで、ゆっくりお休みください。

2018年6月16日

◇　◇　◇

亡き夫寿郎儀葬儀に際しましては、ご多忙中にも拘わらず御会葬下され且つ御丁重なる御厚志を賜り厚く御礼申し上げます。

当日は取り込み中の忙しさに紛れ、満足にご挨拶することも出来ず不行届きの点も多々あったかと存じます。平に御赦し下さい。

「文化の仲間」の八月号にて仲間のみなさんが各々の思いを綴って下さり深く感謝しております。

なにぶんにも未熟なものです。夫亡き後もきびしくご指導のほどお願い申し上げます。

皆様のご健勝とますますのご発展をお祈り申し上げます。

平成三〇年七月一九日

川崎市幸区古市場二丁目一〇九番地

細田　トキ子

劇団員による劇団員紹介　第３回――柳沢芳信さんによる坂木フミさん紹介

今や、「台所の女王？」　思いやりの人

京浜協同劇団　**柳沢　芳信**

「坂木さんは柳沢さんの奥さんですか？」演劇まつりの読み稽古を高津市民館でやっている頃、稽古が終わった後決まって行くホルモン焼き肉の店への道すがら、大西さんから聞かれた。「違いますよ。」と言いながら、「どうしてそんな印象を持たれたんだろうか。」と考える。

今や、「劇団の台所の女王？」早く来れば必ずといって良いほどお茶を入れてくれ、息せき切って駆けつける劇団員の心を和ませる。母性的と言うのだろうか、寄り添って考える人。誰に対しても、心配りの豊かな、「配慮の人」「思いやりの人」なのだ。どの瞬間を見てそんな印象を持たれたかわからないが、「世話女房」的な姿が印象に残ったのかもしれない。

元は、東京都の職員で、児童相談所とか、福祉関係の職に就いていた。と聞いたように思う。公務員と言えば「時間をもてあまして働かない」イメージが流布されているが、人と接する現場はある意味修羅場である。

児童相談所などは社会の矛盾のるつぼだ。人に言えない人生の裏側を山ほど見てきたに違いない。そして、そこでも「世話好き」な人柄が発揮されて、相談者の人生に関わるようなこともあったんだろうなと想像する。

「伊豆高原に別荘を持っている」といえば随分裕福に見えるが、ご主人との二人三脚で築き上げたものの、今では少々重荷になっている様子。川崎を引き払って移住すれば経済は良くなるだろうが、それでは芝居が出来なくなるし、孫の顔も易々とは見られなくなる。痛し痒しの悩みどころ。どなたか買ってくれる方は居ませんか。。。温泉付きですよ。

劇団に入ったのは、「冬の提灯」あたりか。土門君とかが居た頃。私はその頃お休み状態であまり印象が無い。遅咲きの女優。器用な役者とは言えないが、ここでもやはり舞台に尽くす。今そこで自分がすべきことは何かを考える。

家族や孫の世話など、演劇に全精力を傾けるという訳にはいかない様子が歯がゆいところだが、孫もいずれ自立する。これまで脇役中心であったが、これからは主役を狙うべく精進して欲しいと思う。

こうして私が書いている最中、ネタを仕込もうと本人に電話すると、ぜんそくで入院しているという。喘息もあったんですね。そんなことはおくびにも出さず頑張り屋の坂木さん。大好きですよ。

食へのこだわりが強いようだ。「日本酒は純米酒しか飲まない（ようにしている）」点では私と意気投合。

京浜のシェフこと細田さん亡き後、「厨房の女王」として活躍を期待しているが虫のいい話か。

川崎市岡本太郎美術館　企画展

太陽の塔リニューアル記念「街の中の岡本太郎　パブリックアートの世界」

日程　7 月 14 日（土）～ 9 月 24 日（月）

休館日　月曜日(7/16、9/17・24 除く)、7/17、9/18

開館時間　9:30 ～ 17:00（入館は 16:30 まで）

会場　川崎市岡本美術館 企画展示室

入場料（企画展開催中）　一般 900 円　高校・大学生、65 歳以上 700 円　中学生以下 無料

岡本太郎が公園や学校などパブリックな空間に創作した作品は、全国に 70 か所 140 点以上に及びます。作品が個人の所有物となることを拒み続け、誰でもいつでも見ることができるパブリックな空間に作品を作り続けました。

問合せ　川崎市岡本太郎美術館　TEL 044-900-9898

HP: http://www.taromuseum.jp

連載　「京浜協同劇団」と私――第６回

「わらび座」へ

岡田　京子

それは、冷たい雪がどんどん降っている２月の冬の日でした。21歳の私は、師匠の原太郎氏に連れられて、生まれて初めて、東北は秋田の「わらび座」にたどり着きました。仙北郡神代村という農村のド真ん中に根を下ろして４年目を迎えた頃の「わらび座」は、まだ30歳前だった座長の横山茂さんと９名の座員で、駅から20分ほどの所に、材木倉庫を改造した根拠地に住んでいました。後から聞いた所では、この倉庫の持ち主である佐藤晋作さんという方が、初めて見た「わらび座」の舞台に感激して、定住を望んでいた座のみんなのために、この倉庫を住めるように手を入れて提供してくださったとのこと、今思えば、その後もまさしく、たくさんのやさしい秋田の人たちに支えられて活動を続けていったのでした。

「わらび座」に到着したのは夕方の６時か７時頃だったと思いますが、もう真っ暗で、でもほっとしたのは大きなストーブが勢いよく赤々と燃えていたからかもしれません。ストーブのまわりには、近所の方たちと思われる「おじさん」たちが数人遊びに来ておられて酒盛りが始まっていました。ストーブは、そばにいると、すぐ顔がまっ赤になるほど熱いのですが、背中側は氷点下に近いのではないかと思うほど冷たくなるのを不思議に思ったりして暫くすると、歌が始まったのです。

「おばこ」でした。一人が歌い、みんなが唱和する形式で、もちろん私は初めて聞くものばかりでしたが、この人たちの生活と共に生きている民謡であることはすぐわかりました。すると、それまで台所で働いていた奥さんたちが次々と出て来て、歌に合わせて踊り始めたのです。伸びやかな美しい踊りでした。お祭でも何でもない日に、そして踊りも歌も、プロでも何でもない人たちが、全く自然に自分たちの歌を次々と歌い踊っていくこの様子に私は釘付けになってしまったのです。そして、この姿は言葉や振りは違っても、私が感動したロシアの人々の歌や踊りと同様のものであることがわかった日でもあったのです。そして、「民謡を知りなさい」と師匠が言われたことは、このことであったのかと深く納得した日でもあったのです。

こうして始まった私の「わらび座」での仕事は、師匠によって決められました。すでに「わらび座」が公演をした町や村や職場を回って歌の指導をする、ということでした。ちょうど東京では「うたごえ連動」が始まっていて、その風はこの秋田の若い人たちの間にも感じ取られてきた時期でもあったかと思います。「歌の指導」なんてしたこともなかった私でしたが、やらないわけにはいきません。大曲市・横手市・湯沢市を含む村や町に、私は出かけていくことになりました。恐る恐る入ったこの仕事の中で私は、初めて「みんなと歌うこと」の楽しさを知りました。活き活きしていた青年団の存在を知り、それらを助ける小中学校の先生方の力の大きさに驚き、アコーデオンも覚えたのでした。

写真は筆者提供。「現在手もとにあるもっとも若いときの写真」

劇団制作部からのお知らせ

「おりん」稽古スタート

京浜協同劇団　**岡野　三郎**

7 月 14 日～ 15 日のかわさき演劇まつりでの「注文の多いドングリと山猫と料理店」が終演、いよいよ秋の劇団本公演、「おりん（姥捨て異聞）」に向けての季節到来です。皆様ご存じのとおり、和田庸子による久々の書き下ろし創作劇です。そして、演出も本人が兼ねるという、劇団始まって以来の公演になります。劇団創立 60 周年記念の第一弾です。

原作は深沢七郎 1956 年の「楢山節考」。同 1958 年の戯曲 楢山節考とは異なり、和田庸子が現代の視点から原作小説を読み直して脚本化します。脚本は第 4 稿が書きあがっています。

「楢山節考」は民間伝承の棄老伝説を題材とした作品で、山深い貧しい部落の因習に従い、年老いた母を背板に乗せて真冬の楢山に捨てに行く物語です。自ら進んで「楢山参り」の日を早める母「おりん」と孝行息子との間の無言の情愛を描いて、命の温かさや生きることの意味を観客に問いかけます。しかし、深沢七郎の原作小説に忠実に「伝説」を演じるのではなく、作り手と観客がこの上演を通して、世の中となれ合ってしまっている価値観に楔（くさび）を打ち、生きていく元気を取り戻すきっかけを作り上げたい。現代の老々介護に疲れた「心中」、「孤独死」、「下流老人」等のキーワードが醸し出す「現在」に反旗を翻す作品を作り上げるつもりです。

劇団も創立 60 周年を来年に控え、創立メンバーの一人でもある、細田寿郎を病気のためにこの 6 月に失いました。劇団員は若手が定着せず減少する一方で、平均年齢が 65 歳を優に超えています。正にこの先が危ぶまれる状況で、既に世間的には「シニア劇団」なのですが、誰一人としてそれを認めようとはしません。歴史ある市民劇団として、世のシニア劇団にありがちな、加齢を免罪符に台詞や動きの悪さを棚上げする傾向に組みしません。芝居を自分たちの楽しみの世界に留まらせず、社会と繋がり、演技も装置も道具も妥協を許さず、世間の「常識的」な見方に「反旗」を翻し、どこまでも一流を目指し続けるのです。

上演は 11 月中旬の 2 週間に 10 公演を予定しています。劇団にみなぎる「老人力」と若い客演者の力を融合させ、さらに応援下さる皆様の力で酷暑を乗り越えて実り豊かな秋を迎えようではありませんか。

京浜協同劇団　第 92 回公演　創立 60 周年記念・第 1 弾

おりん　姥捨て異聞

山と山が連なり、
どこまでも山ばかり。
村のはずれに
おりんの家はあった。

日程　11 月 16 日（金）～ 24 日（土）（詳細は右の表）
会場　スペース京浜（京浜協同劇団稽古場）
原作　深沢七郎「楢山節考」
脚本・演出　和田庸子／音楽　安達元彦
入場料（前売）大人 2900 円　シニア（70 歳以上）2500 円
ユース（30 歳以下）2000 円　学生 1500 円
（当日券は各 500 円増し）
問合せ　京浜協同劇団　TEL 044-511-4951　Fax044-533-6694
メール：keihinkyoudougekidan@nifty.com　HP：http://keihinkyoudougekidan.com/

2018 年 11 月

開演時刻	16 日（金）	17 日（土）	18 日（日）	22 日（木）	23 日（金）	24 日（土）
11:00		●	●		●	●
15:00		●	●		●	●
19:00	●			●		

開場は 30 分前です。

◎文化の仲間通信◎

◆東京国立博物館　日本の考古・特別展
縄文―1 万年の美の鼓動

日程　7 月 3 日（火）～ 9 月 2 日（日）
開館時間　9:30 ～ 17:00（通常）　金・土は 21:00 まで、日・休日は 18:00 まで
休館日　月曜日（月曜日が休日の場合は火曜日休館）
観覧料　一般 620 円　大学生 410 円
縄文時代草創期から晩期まで、日本列島の多様な地域で育まれた優品を集め、人々の技や思いに迫ります。
問合せ　03-5777-8600（ハローダイヤル）
HP: http://www.tnm.jp

◆中高生のための平和交流企画

❶明治大学登戸研究所見学
日程　8 月 8 日（水）13:00 ～ 15:30
小田急線生田駅改札前 12 時 30 分集合
会場　明治大学登戸研究所

❷平和館見学と平和教育ワークショップ
日程　8 月 9 日（木）13:00 ～ 15:30
会場　川崎市平和館（東急東横線武蔵小杉駅、または元住吉駅から徒歩 5 分）
参加資格　❶❷とも、中学・高校生 15 人（保護者 1 人まで参加可）［先着順］
問合せ・申込み　川崎市平和館へ直接
TEL 044-433-0171　FAX 044-433-0232
E メール：25heiwa@city.kawasaki.jp

◆第 66 回　平和美術展

日程　8 月 14 日（火）～ 21 日（火）　9：30 ～ 17：30
会場　東京都美術館（上野公園）
入場料　一般 700 円　70 歳以上・大学生以下無料
展示作品　油彩・水彩・日本画・版画・写真・書・彫塑・立体造形・生け花・インスタレーション ほか
すべてのいのちを大切に　平和の壁に花一輪を（私も出品しています―小野寺晃〈文化の仲間世話人〉）
問合せ　事務局 090-1430-2286（吉田）

◆劇団青年座　第 233 回公演
3 組の夫婦による　ぼたん雪が舞うとき

日程　8 月 22 日（水）～ 9 月 2 日（日）
開演 14:00 または 19:00（詳細問合せ）
会場　青年座小劇場 B1
作　高木達／ A 組（演出　齊藤理恵子／出演　横堀悦夫・津田真澄）B 組（演出　伊藤大／出演　山野史人・岩倉高子）C 組（演出　黒岩亮／出演　平尾仁・井上夏葉）
料金　全席指定　一般 4500 円　U25（25 歳以下）3000 円 ほか
2011 年の東日本大震災による原発事故をモチーフにした創作劇。多数の原発がある日本、原発がある街、どこでも、いつでも、だれにでも起こりうる出来事を、青年座の 3 人の演出家、3 組のキャスト（A 組・B 組・C 組）によって競演します（いつどの組が出演かはお問い合わせください）。
問合せ・申込み　青年座 0120-291-481（11:00 ～ 18:00）
HP: http://seinenza.com

◆人形劇団ひとみ座　70 周年記念公演第一弾
まっぷたつの子爵

日程　8 月 23 日（木）～ 26 日（日）（25 日休演）
各日開演　11:00 および 14:00
会場　県民共済みらいホール（桜木町）
料金　前売一般 2600 円　前売子ども 2000 円
全席指定　4 歳以上有料
原作　イタロ・カルヴィーノ／訳　河島英昭／脚本・演出　友松正人／人形美術デザイン　吉澤亜由美
戦争で体が左右まっぷっつになってしまった子爵。左右それぞれが極端な〈悪〉と〈善〉になって故郷の村で大騒動を巻き起こす！
問合せ　ひとみ座 044-777-2225　puppet@hitomiza.jp

◆こまつ座公演　マンザナ、わが町

日程　9 月 7 日（金）～ 15 日（土）
開演は 13:30 または 18:30（詳細問合せ）
会場　紀伊國屋ホール（新宿東口・紀伊國屋書店新宿本店 4 階）
料金　一般 7000 円　学生割引 4000 円（全席指定）
作　井上ひさし／演出　鵜山仁／出演　土居裕子・熊谷真実・伊勢佳世・北川理恵・吉沢梨絵
数多くの賞を受賞した『マンザナ、わが町』が、日本人海外移住 150 周年の記念すべき年に、待望の再演決定！

◆山寺圭子　うた・唄・歌　Vol.32　うたよ、いつまでも。

日程　9 月 14 日（金）19:00 開演
会場　めぐろパーシモンホール小ホール
料金　3500 円（全席自由）
ソプラノ　山寺圭子／ピアノ　中山真理・朝岡真木子
演目　R・シュトラウス（万霊節・夜 ほか）／山田耕筰（赤とんぼ・砂山 ほか）／小林秀雄（まっかな秋）／朝岡真木子（金子みすゞの詩による組曲「日の光」より・組曲「ヒロシマ」）
問合せ　山寺 044-511-8995

◆青年劇場　第 120 回公演　キネマの神様

日程　9 月 14 日（金）～ 23 日（日）詳細問合せ
会場　紀伊國屋サザンシアター（新宿駅南口）
料金（前売）　一般 5150 円　U30（30 歳以下）3100 円
中高生シート 1000 円　全席指定
当日　一般 5500 円　U30 3400 円
原作　原田ハマ／脚本　高橋正圀／演出　藤井ごう／出演　冨田祐一・森山司・藤井美恵子・藤木久美子 ほか
名画は大輪の花火である。それを仕掛ける川辺は今……。夢を持ち続ける人々が織りなす奇跡の物語！
問合せ・申込み　青年劇場チケットサービス
03-3352-7200　ticket@seinengekijo.co.jp

◆ Y プロジェクト公演　靖国への帰還

日程　10 月 4 日（木）～ 8 日（月・祝）
会場　渋谷伝承ホール
原作　内田康夫／脚本・演出・主演　野口大輔
時は太平洋戦争終結直前の昭和 20 年。海軍航空隊中尉・武者滋は、戦闘機「月光」で飛び立った。敵機に撃墜され、死を覚悟して意識を失うが――目覚めたのは、なんと現代の日本⁉　還る場所を失った青年は、何を決意したのか……？　感動の SF タイムスリップ小説、待望の舞台化。
問合せ　高村絵里 julietisthesun0707@yahoo.co.jp

◇◇

●文化の仲間世話人会から知らせ

○ 2018 年分の会費未納の方は、納入をお願いします。
○ 2018 年 9 月 30 日（日）に第 21 回定期総会を開催します。ゲストとして、舞台美術家の小池れいさんに講演をしていただきます。多くの方のご参加をお待ちしています。

■文化の仲間ギャラリー■　　大谷　敏行⑥

「厳選」大谷敏行の川柳塾

新聞を　親の仇のように言う
七月一五日　赤旗日曜版掲載

気をつけて　オレオレ詐欺と愛国心
刑務所に　引っ越したくて人殺（あや）め
頭下げ　一件落着医療ミス
髪薄く　怒髪天突くべくもなし
ああ無情　雌伏被告に鞭を打つ
七月一日　赤旗掲載

拉致問題　隔靴掻痒埒（かっかそうようらち）もない